

令和5年度 学力向上指導改善プラン

三田市立藍学校長 榎並 由美

学校教育目標		心豊かにたくましく共に生きる生徒の育成		4月		2～3月	
推進主体		管理職、研究推進、教育課程、各教科代表による 研究推進委員会を中心に推進		学力向上に向けての重点的な目標		年度末評価	
学力に関する前年度の状況・経年の課題等				(指標となる数値等)	(成果目標達成のための具体的な手立て等)	(今年度の成果と来年度に向けた課題等)	評価
学 力 の 状 況	全国学 力・学習 状況調 査結果 の状況 (国語、 算数・教 学に關 する質 問紙 調査の結 果も含 む)	国語	○助動詞の動きについて理解し、目的に応じて使う(選択式の問題)、漢字を正しく書く(短答式の問題)、根拠を明確にして書く(記述式の問題)など、問題形式を問わず言葉の使い方や書くことの能力が身に付いている。 ◆表現技法を問われ、比喩法を答える問では、正答するには2つの条件があったものの、1つしか条件を満たしていないものが多かった。また「比喩」「明喩」「直喩」などの言語の知識が定着していなかった。	1. 授業改善および学習習慣の定着 ・朝の「学習タイム」や放課後の「ひょうごがらりタイム」の活用により、基礎・基本や学習習慣の定着を進める。 ・授業のユニバーサルデザイン化を進め、基礎基本の定着をはかる。 ・「朝の「学習タイム」や放課後の「ひょうごがらりタイム」の活用により、基礎・基本や学習習慣の定着を進める。	・講師を招き、授業改善に向けて授業力向上のために研修を行い、授業公開週を年2回設定して研修を深める。 ・ICT機器を活用した資料の提示や板書などの工夫により、授業内容を理解しやすくする。 ・学習の「めあて」を意識させ、授業の流れを明確にすることで、主体的に学ぶ姿勢を培う。また、「振り返り」を書くことで、学習内容の定着と学ぶ意欲の向上を図る。 ・資料を読み解く機会を多く取り入れ、資料を比較し自分の考えを構築したりする体験を大切に。 ・目的や意図に応じて、内容の中心を明確にして文を書く力を身に付けさせる。		
		算数	○連立方程式を解くなど基本的な計算ができる。また、ある事象が起こる確率的に選ぶことができる。証明で用いられている三角形の合同条件を書ける。 ◆一次関数の変化の割合の意味が理解できていない。 ◆結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見出して説明することや、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題がある。 ◆筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することに課題がある。				
		ICT機器を効果的に活用した取組状況	○調べ学習や、自分の考えをまとめて意見交流をするなどにタブレット端末が活用されている。 ◆大画面により、学習内容を全体で把握しやすくなっている。 ○デジタル教科書の活用では、解説の動画などにより理解しやすくなっている。 ◆著作権やプライバシー保護について理解を深め、情報を収集し、それを活用して表現することに課題がある。				
		定期テスト、単元テストなどによる状況(各教科)	○テスト前は、計画的に学習を行うことができるようになってきている。 ◆学力の定着に二極化の傾向が見られる。				
		授業等からうかがえる状況(各教科)	○落ち着いた学習に取り組める生徒が増えてきている。 ◆宿題だけでなく、自分で考えて自主学習を行うことに課題がある。				
慣 学 ・ 力 生 活 上 習 に 関 係 等 の 学 生 習 習	全国学力・学習状況調査の質問紙の状況	○全体的に規範意識が高く、学習意欲についてはおおむね良好であると判断できる。 ◆「普段、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか」の質問に対して3時間以上の回答比率が高い。 ◆携帯電話の使い方について、家の人と約束したことを守っていない人が3割近くいるので、学校でも「家庭でのルールづくり」について再度しっかり呼びかける。	2. 人権教育を基盤にした小中連携 ・中学校区3校による、交流研修の充実(三校研)。 ・学力向上に向けた小中連携の推進。 ・9年間の学びに向けた小中一貫教育の推進	・小学校教職員対象に、中学校での進路指導の実態を説明し、小学校から養うべき学習への姿勢を共通理解する。 ・全国学力・学習状況調査の合同分析を三校研で実施し、その後合同研修会を実施する。 ・小中教員の定期的な交流を行い、共通理解のもと学習指導や生活指導に取り組む。 ・学校園所の授業参観の機会を設定し、教師間の交流を図る。 ・小中で教科指導について連携を図る。			
	学校評価などのアンケート調査による児童・生徒の状況	○社会や学校で決められたルールやマナーを守っている。 ◆家庭学習の習慣に課題がある。					
校 内 研 究 ・ 研 修 の 状 況	校内研究の状況	○インクルーシブ教育の観点から「誰も分かる授業づくり」を目指して、「めあて」や学習の流れを明確にして「振り返り」を行うことで学力の定着を図っている。 ◆評価基準に照らし、個に応じた支援を考える必要がある。 ○1人1台の端末を活用した授業を教科を行い、教科の枠を超えて効果的な端末の使い方について研修を行った。 ◆すべての生徒が基礎基本が定着するよう取り組む。	3. 家庭学習の充実 ・計画的に家庭学習をする習慣を身につけさせる。 ・家庭への啓発及び連携により、家庭学習の定着をより進める。	・家庭学習の定着を図るため、小学校の取り組みを参考にし、毎日の学習習慣を身に付けさせる。 ・テストに向けた学習計画を立ててテスト勉強に取り組むのと同じように、普段から計画的に学習に取り組めるようにする。 ・予習復習の習慣を身につけさせる。			
	校内研修の状況	○個別最適な学習の充実のために、個別の目標を設定する。 ・間違いを恐れずに、自分の考えを発表しようとする態度と、それを受け入れられる学級の雰囲気作りを行う。 ・1人1台端末の使い方のルールやマナーを定着させる。 ・教育相談体制の充実を図り、生徒に共感し寄り添う指導の深化をさせ、学びの環境を整え、学習意欲を高める。					
家 庭 ・ 携 帯 機 間 連	家庭・地域等の状況	○学校の教育活動には協力的である。 ○生徒は地域の活動にも積極的に参加している。	4. 読書活動の充実 ・朝学習タイム「読書タイム」の活用などにより、読書の習慣を身につけさせる。 ・委員会や国語の授業を活用した図書室の利用機会を増やし、読書に親しむ。	・ひとりひとりに応じた学習活動、学習課題の提供する。 ・授業のユニバーサルデザイン化を進め、学習の見通しや学習の足跡がわかる板書計画や授業の展開を図る。 ・調べ学習や意見交流、考察のまとめなどで積極的に端末を活用すると同時に、端末の使い方のルールやマナーを身に付けさせる。			
	小・中における教科連携等の状況	○人権教育において藍中学校区3校で合同の研修を行い、人権意識を高めることができた。 ◆小中の連携を深め、継続的な学力向上の取り組みが必要である。					
6. 地域との関わりとキャリア教育				・生徒が自分らしい生き方を実現する力を育んでいくために、将来の夢や目標を持つことができるように、キャリア教育の充実を図る。 ・トライやるウィークを通して、地域の仕事に関心をもち、地域に対して興味や関心をもちたい。	・夢や目標、志をしっかりと持ち、それを語るができるように、将来や未来に目を向けさせる。 ・トライやるウィークで地域の職業体験や、ボランティア活動などを通して地域の事に関心をもち、愛着を感じたりできるようにする。 ・トライやるウィークを通して、自分の適性などについて考え、進路選択を進める。		